

既存試料・情報を用いる研究についての情報公開

本学では、医学系研究に協力して下さる方々（以下研究対象者）の利益と安全を守り、安心して研究に参加していただくように心がけております。こちらに記載されている研究については、研究・診療等により収集・保存された既存試料・情報を用いる研究で、直接研究対象者からインフォームド・コンセントを取得することが困難であるため、情報公開をさせていただいております。

こちらの文書は研究対象者の皆様に、情報公開をするとともに、可能な限り研究参加を拒否または同意撤回の機会を保障する為のものになります。

なお、研究参加を拒否または同意撤回されても一切の不利益はないことを明記させていただきます。

受付番号	(倫理) 第 3476 号
研究課題	熊本地震以降、当施設産科における災害対策の現状と課題
本研究の実施体制	研究責任者：田口 弘美（西病棟 7 階 副看護師長） 研究担当者：鷺島 克之（集中治療部 講師）
本研究の目的及び意義	私たち熊本大学病院総合周産期母子医療センターでは、2017 年に「熊本地震における周産期看護の実際と課題」という看護研究を行いました。初めて経験した大規模な地震災害で、入院患者さま、外来管理中の妊婦さま産婦さま、ほか熊本県内の周産期施設への支援方法の実際の様子から、新たな対策を構築することができました。 あの熊本地震から 10 年が経過し、災害対策の現状を再確認して、今後の大規模災害への備えを検討することを、本研究の目的としています。
研究の方法	2017 年に実施した看護研究の際に取得した情報、および当施設産科病棟で現在実施している看護のうち、災害対策を抽出して、質的研究を行います。
研究期間	2026 年 4 月 16 日から、2028 年 3 月 31 日まで
試料・情報の取得期間	2026 年 4 月 16 日から、3 ヶ月程度（2026 年 6 月頃まで）
研究に利用する試料・情報	2017 年に実施した「熊本地震における周産期看護の実際と課題」に関する看護研究で取得した情報、および 当施設産科で実施している災害対策
個人情報の取扱い	この研究では、個人が特定されることはありません。また、これらの情報を外部機関へ提供すること

はありません。研究に用いる情報を保存した USB は、研究担当者のみが閲覧できるように産科病棟の鍵のかかるロッカーで保管します。データは、産科病棟に設置されているインターネットに接続していないパソコン内にパスワードを必要とするフォルダーを作成して、研究責任者が責任を持って保存管理し、研究期間が終了した後に破棄いたします。

研究成果に関する情報の開示・報告・閲覧の方法

この研究の結果は、国内の周産期、周産期救急に関わる各種学会で成果発表を行う予定です。研究説明や、研究成果につきましては、対象となった方、個人への開示は予定しておりませんが、産科外来掲示版および、次回大会が開催される際の会場掲示版に、掲示して報告させていただきます。偶発的な所見や、研究の対象となった方の血縁者、子孫にとって重要な情報が得られた場合には、研究対象者間で相談した上で、対応方法を検討させていただきます。研究に関して情報の開示が必要な場合には、下記問い合わせ先へご連絡いただきますと、研究担当者で対応させていただきます。

利益相反について

この研究においては、研究費は発生していません。研究での利害関係の公正性については、熊本大学大学院生命科学

研究部等医学系研究利益相反委員会の承認を得ています。

本研究参加へのお断りの申し出について

この研究の対象となった方は、情報の研究利用を拒否することができます。拒否を希望されるかたは、下記連絡先までご連絡ください。研究へ参加されない場合でも、診療等の不利益は一切ございません。

本研究に関する問い合わせ

本研究へのお問い合わせ、相談など、なにかございましたらこちらにご連絡をお願いいたします。

研究責任者：熊本大学病院 総合周産期母子医療センター 看護師 田口弘美

〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1

熊本大学病院 産科外来 電話096-373-5669

熊本大学病院 西病棟7階電話096-373-7046